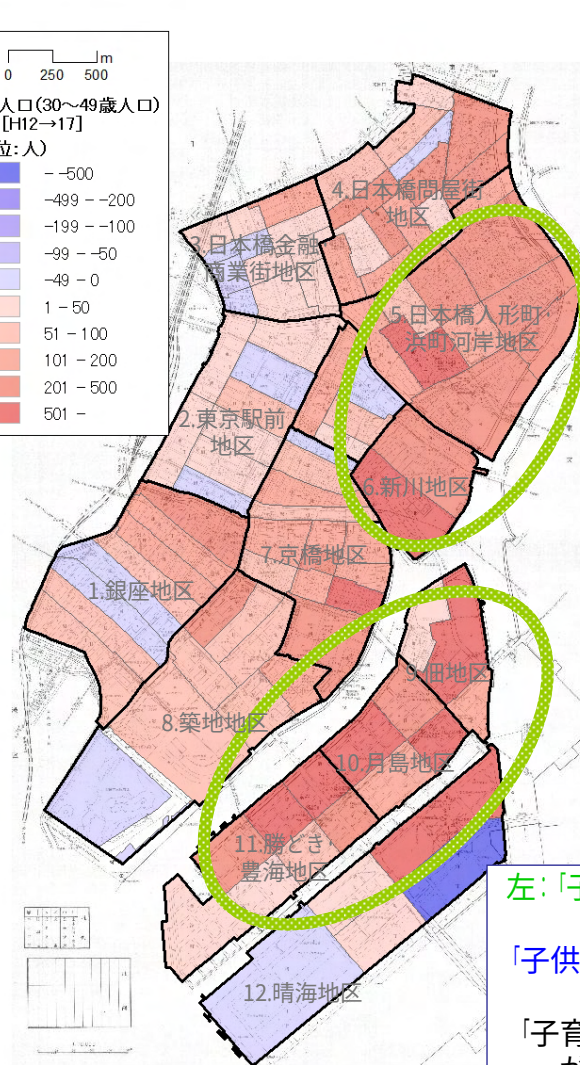
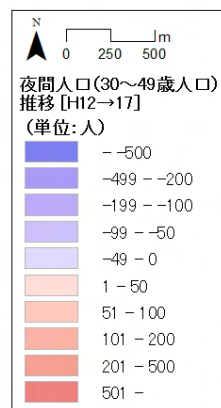
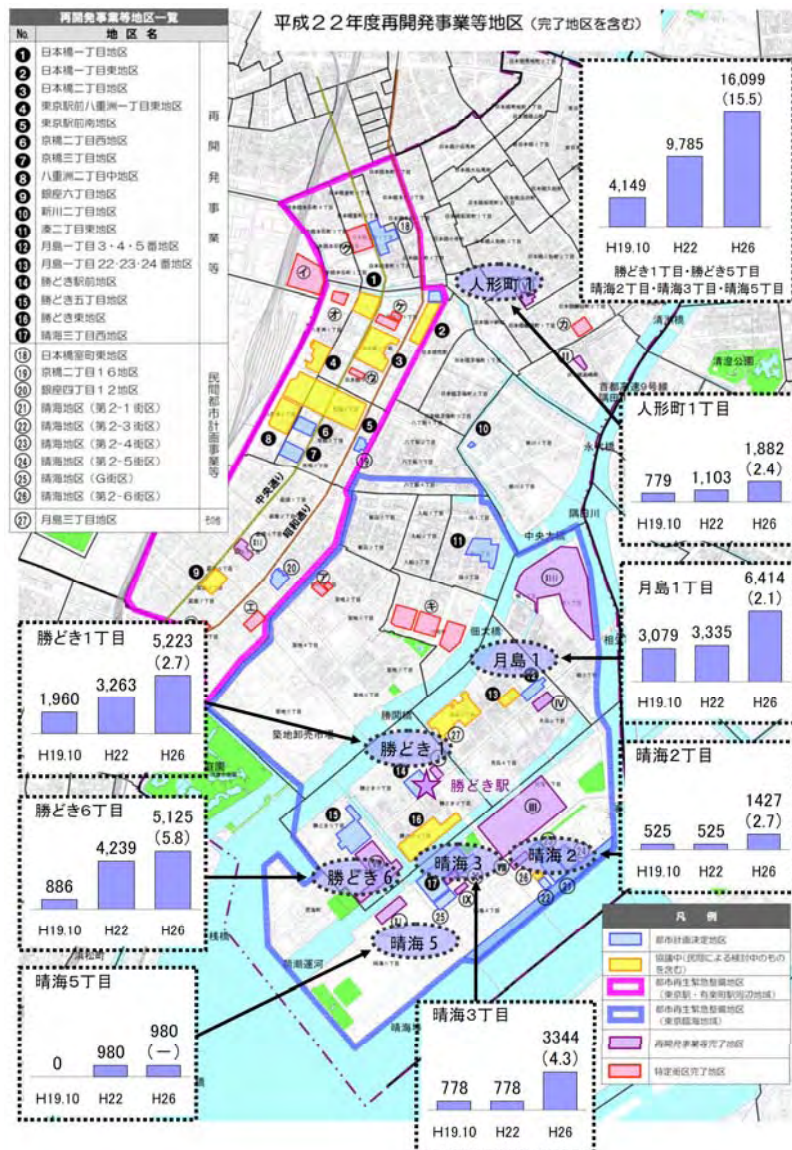


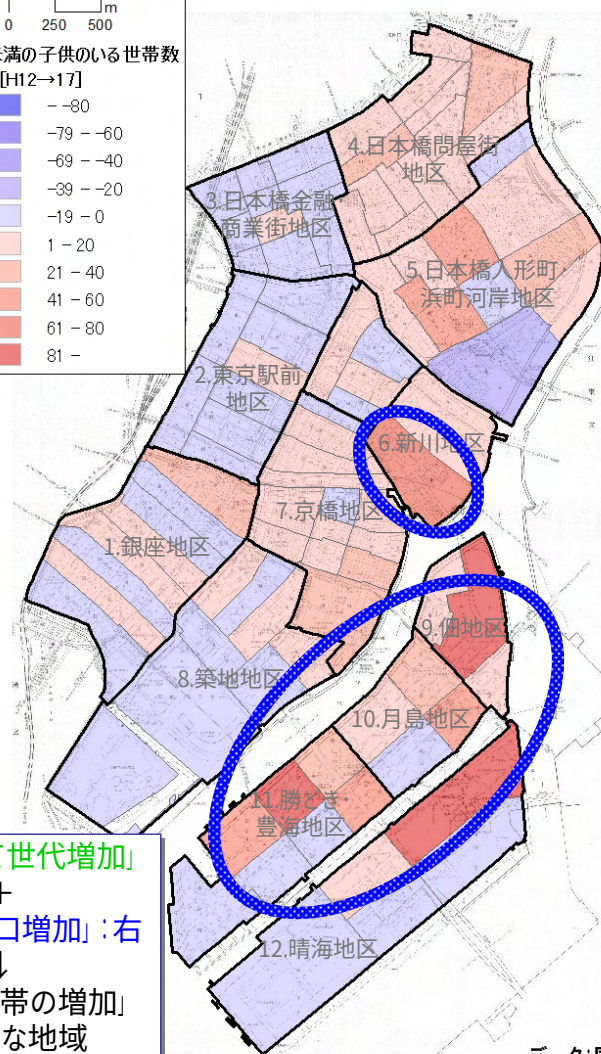
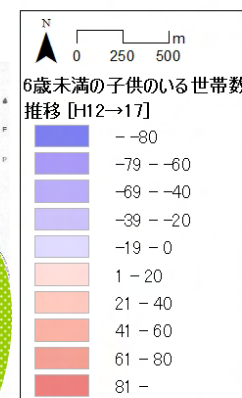
中央区の社会経済・交通現況の整理

<大規模開発による今後の人口増加の可能性>

- 中央区内では、勝どき、晴海、月島等の各地区において、大規模開発が進行、または計画されており、今後もこれらの地区を中心に、人口の増加が予想される。
- また、開発の進む勝どき、晴海地区を中心に、30～40歳代の世帯数及び6歳未満の子供のいる世帯数の増加傾向がみられることから、「子育て世代」の世帯が増加傾向にあると推定される。今後も大規模開発が進む地区では、更にこれらの世帯が増加すると考えられる。



データ:国勢調査



データ:国勢調査

図 夜間人口の推移 (30～49歳人口) [H12→17]

図 0～6歳の子供が居る世帯数の推移 [H12→17]

資料:区内公共交通のあり方調査 報告書(平成20年3月 中央区)等より作成

図 平成26年までの住宅開発等による地区別人口増の見込み

中央区の社会経済・交通現況の整理

IV-3. 産業

<業務機能>

- 区内の事業所数は41,454事業所(都内第2位)、従業員数は746,439人(都内第3位)
- 日本橋地区西北部の本石町・本町一帯、東京駅前の八重洲・日本橋・京橋・兜町一帯、昭和通り以西の広い範囲に集中している。
- 隅田川方面にも拡大。

<商業機能>

- 中央区全体に分布し、特に日本橋、八重洲、銀座一帯に百貨店と娯楽業、飲食業が集中している。
- 近年は、銀座へのブランドショップの出店が増加。
- 日本橋地区の横山町・馬喰町・富沢町・堀留町一帯に、繊維関連の卸売業が集中
- 日本橋人形町や月島等には、特色ある商店街が立地
- 晴海地区には、大規模な商業施設も立地

小売業・・・商品販売額は都内全体の10%を占める。

・中央区の小売業での商品販売額:約1兆4,730億(都内第1位)

・東京都の小売業での商品販売額:約10兆1,808億円

卸売業・・・都内2位の販売額で、40兆円を超す。

・卸売業の年間販売額:40兆,789億2,400万円(都内第2位)

資料:平成19年 東京都商業統計

<工業機能>

- 中央区の東半分に分布しており、特に入船・港・八丁堀などに、印刷・製本など都心立地型の製造業
- 築地地区には、食品工業が多数立地
- 月島地域は大規模な鉄工業、機械工業のほとんどが区外に移転し、現在は小規模な工場が点在

表 都内商業集積地区の年間商品販売額上位10(都内)

順位	区市町村名	商業集積地区番号	商業集積地区名	集積細分	販売額特性	年間商品販売額	事業所数	従業者数	就業人数	売場面積	大規模小売店舗数
						百万円		人	人	m ²	
1	新宿区	020	新宿駅東口	11	1	515 420	454	10 316	18 873	205 051	25
2	中央区	013	銀座地域	12	4	483 254	813	9 455	13 004	218 815	23
3	新宿区	028	新宿駅西口	11	1	399 353	282	5 366	9 017	130 263	8
4	豊島区	024	池袋駅東口	11	1	337 415	369	6 375	19 816	173 287	17
5	中央区	001	室町地域	12	1	284 446	51	2 366	4 844	65 035	1
6	中央区	006	日本橋地域	12	1	208 224	129	3 962	8 074	64 895	4
7	田舎市	007	町田駅南口地域	11	4	188 579	589	6 036	9 789	152 791	19
8	豊島区	025	池袋駅西口	11	1	168 829	197	3 494	8 019	104 911	4
9	立川市	001	立川駅北口	11	1	160 325	377	5 250	8 853	130 151	11
10	渋谷区	018	渋谷公園通商店街	11	2	155 585	331	4 190	7 880	107 178	9

出典:東京都(平成21年)、「東京の小売業 平成19年商業統計調査報告 小売業態別集計編」

中央区内の主な商業集積地域での商品販売額は、平成9～14年に掛けては落ち込んだものの、平成14～19年は横ばいまたは増加傾向にある。

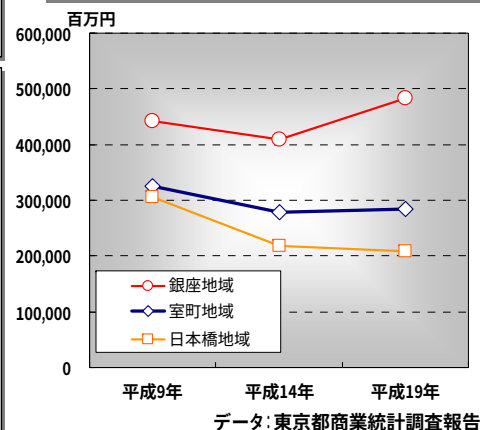
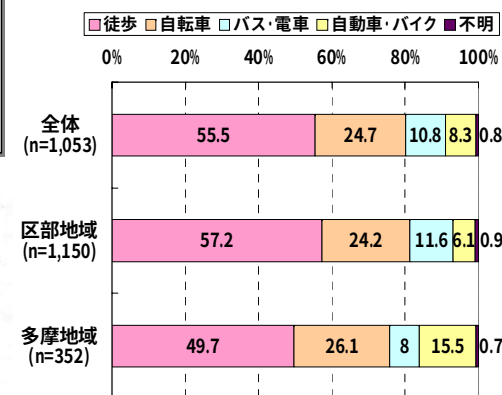


図 小売業商品販売額の推移(室町・日本橋・銀座各地域)

都内商店街における来訪手段は、約8割の人が徒歩または自転車を利用して商店街に訪れる傾向が見られる。



資料:平成22年度 東京都商店街実態調査 報告書

図 商店街への来街手段



注) 区内公共交通のあり方調査 報告書(平成20年3月 中央区)を元に追加編集

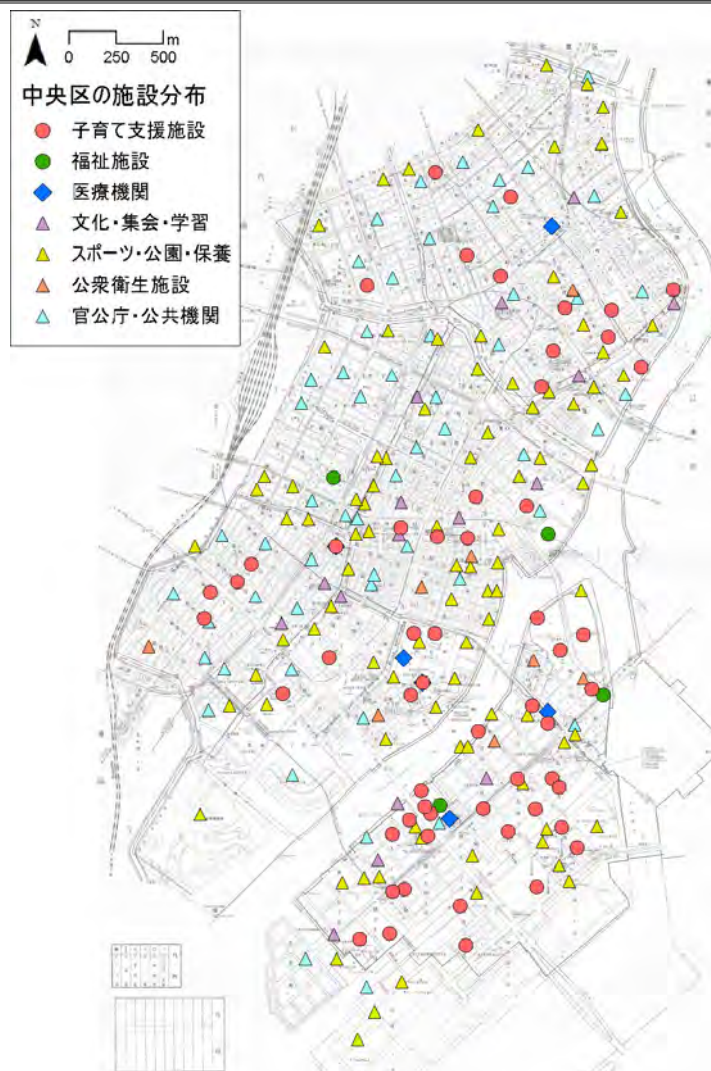
図 中央区内の商業施設分布

中央区の社会経済・交通現況の整理

IV-4. 公共施設等の分布

＜公共施設の分布＞

○子育て支援施設、高齢者の介護・生活支援施設及び障がい者支援施設が区内全域に分布している。



注) 公衆衛生施設のうち、公衆トイレは非表示。

資料: ちゅうおうナビ (中央区HP) より作成

図 中央区内の主な施設分布

＜観光施設・地域の分布＞

○日本橋問屋街・中央通り沿い (三越駅前付近～銀座)・築地市場・浜離宮公園・西仲通り沿い (月島もんじゃ街)・晴海トリトンスクエア等の観光施設が存在する。



注) 区内公共交通のあり方調査 報告書 (平成20年3月 中央区) を元に追加編集

図 中央区内の観光施設・地域分布

中央区の社会経済・交通現況の整理

＜鉄道サービスと利用状況の現状＞

- 鉄道網はⅠ・Ⅱゾーンでは比較的高密度に整備されているが、そのほとんどが地下駅であり、上下移動を要する。一方、Ⅲゾーンは2駅のみである。
- ゾーン別の利用状況については、Ⅰゾーンの乗降客数が最も多く、とりわけ東京駅と銀座駅が多い。
- 乗降客数の推移については、近年ではⅠ・Ⅱゾーンは微減傾向を示している一方、Ⅲゾーンは顕著な伸びを示し、とりわけ勝どき駅の増加が大きい。

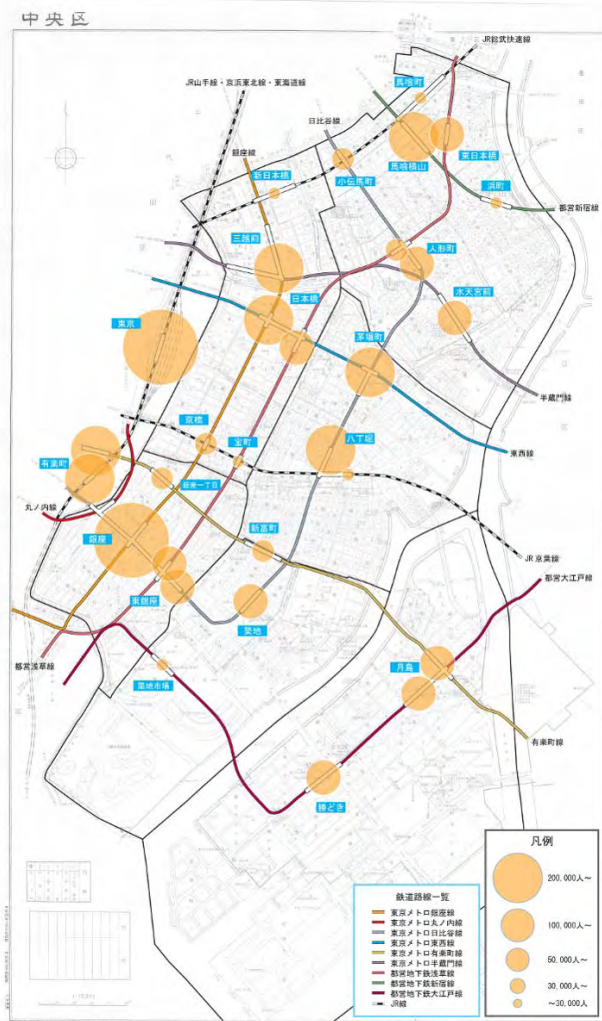


図 中央区内の鉄道駅の利用者数

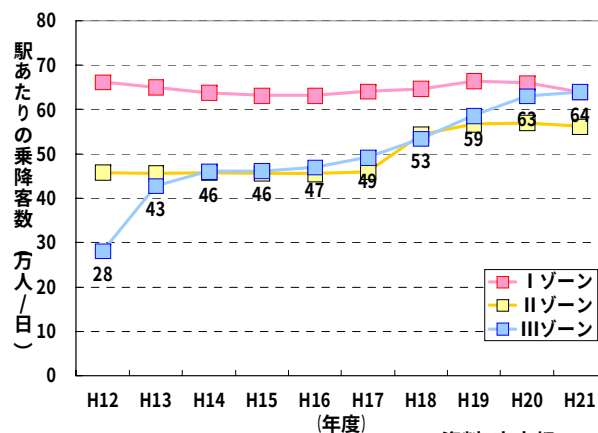


図 ゾーン別1駅あたり乗降客数

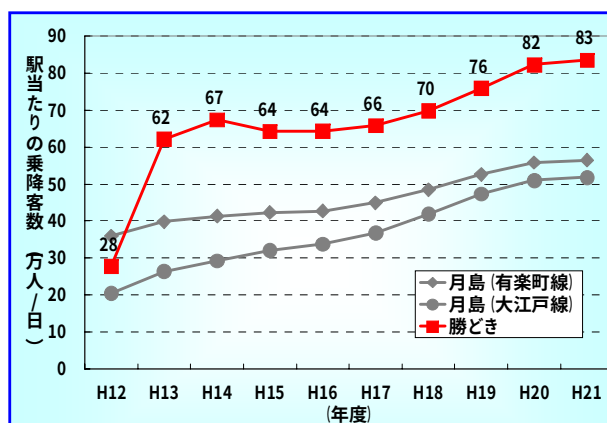


図 IIIゾーン内の駅別乗降客数

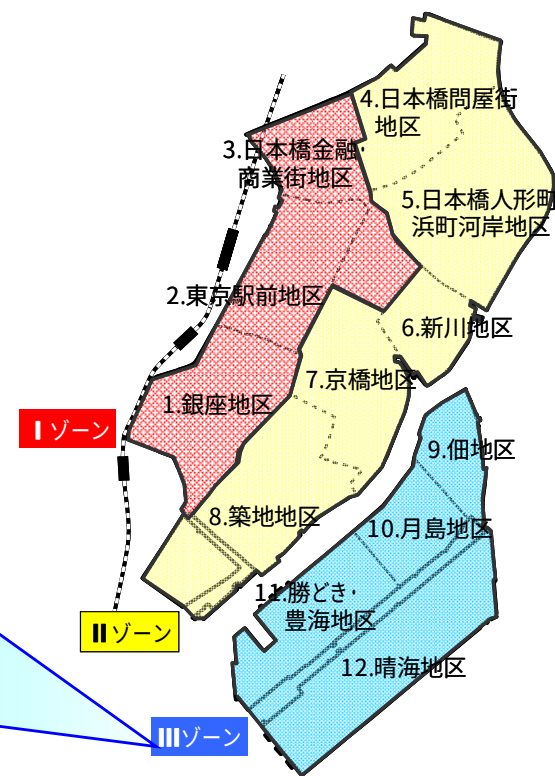


図 中央区のゾーン図

中央区の社会経済・交通現況の整理

<バスサービスの状況>

- 区内の都営バスの運行は晴海通りと八重洲通りが運行本数が多い主要経路であり、利用者が多い区間であると推測される。
- 特に、晴海通りの運行本数は多く、平日平均概ね4分に1本以上の頻度で運行されている。
- 一方、区内を南北方向に結ぶ系統では、運行本数が10～20分間隔、中には20分間隔以上の路線も存在し、バスの経路や系統によってサービスレベルが異なっている。
- 区が運行するコミュニティバス（江戸バス）は、北循環と南循環の2路線で、20分間隔で運行されている。また、日本橋・京橋地区を巡るメトロリンク日本橋は、約10分間隔で運行されている。

表 中央区内各路線バスの系統、起終点および運行本数

名称	系統	起点	主な経由地	終点	起点→終点			
					平日	土曜	休日	平日 ピーク時 (8時台)
都営バス	S-1	東京駅丸の内北口	上野公園山下・浅草雷門	両国駅(JR)	0	4	4	0
	市01※1	新橋駅	築地中央市場(循環)	新橋駅	55	44	0	1
		新橋駅	国立がん研究センター(循環)	新橋駅	19	14	62	11
	都03*	四谷駅	銀座四丁目	晴海埠頭	33	18	17	3
	都04*	豊海水産埠頭	勝どき駅・銀座四丁目	東京駅丸の内南口	109	87	75	12
	都05*	晴海埠頭	銀座四丁目・有楽町駅	東京駅丸の内南口	114	82	73	12
		東京テレポート駅	有明テニスの森・銀座四丁目	東京駅丸の内南口	0	10	10	0
	業10*	新橋	銀座四丁目・豊洲駅・菊川駅	業平橋駅	93	78	71	8
	錦11	亀戸駅・錦糸町駅	新大橋・茅場町	築地駅	31	28	30	3
	東12	東京駅八重洲口	月島駅	晴海埠頭	32	29	29	3
	錦13甲	錦糸町駅	東陽三丁目・豊洲駅	晴海埠頭	44	46	37	4
	東15*	深川車庫	豊洲駅	東京駅八重洲口	47	42	39	3
	東16	東京駅八重洲口	月島駅・豊洲駅	東京ビッグサイト	97	55	48	11
		東京駅八重洲口	亀島橋	住友ツインビル前	15	0	0	6
	東20	東京駅丸の内北口	東京都現代美術館	錦糸町駅	21	21	20	0
	東20乙	東京駅丸の内北口	兜町	IBM箱崎ビル	2	0	0	2
	東22	錦糸町駅	東陽町駅・日本橋	東京駅丸の内北口	64	50	41	5
	秋26	葛西駅	境川・浜町中の橋	秋葉原駅	52	44	42	4
	門33	亀戸駅	業平橋・門前仲町	豊海水産埠頭	65	52	40	5
	東42甲	南千住車庫・南千住駅西口	東武浅草駅・浅草橋駅	東京駅八重洲口	34	38	34	6
		南千住車庫・南千住駅西口	東武浅草駅・浅草橋駅	東神田	77	53	40	2
江戸バス	北循環	中央区役所	呉服橋・馬喰横山駅・浜町(循環)	中央区役所	36	36	33	3
	南循環	中央区役所	佃・晴海・豊海町・勝どき橋(循環)	中央区役所	36	36	33	3
メトロリンク日本橋		東京駅八重洲口	新日本橋駅・京橋・宝町駅(循環)	東京駅八重洲口	60	60	60	0

※平成23年11月現在の本数

※平日ピーク時は起点を8時台に出発する本数

※1:市01系統の「休日」は築地中央市場の休場日

*は晴海通り「勝どき橋南詰」バス停(右図断面)を通過する都営バス系統

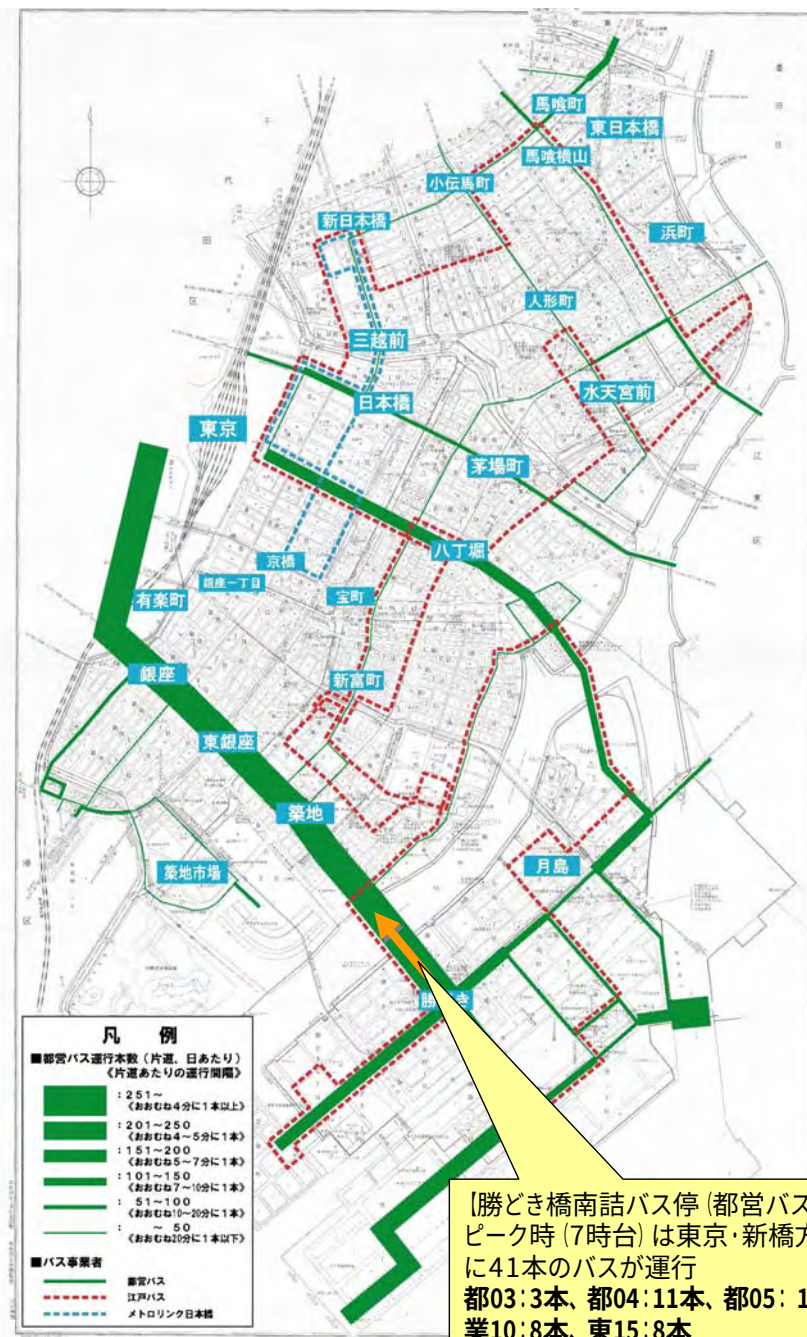


図 中央区内バスの運行本数(平日)

中央区の社会経済・交通現況の整理

<道路交通>

- 道路網の整備状況は、日本橋を中心に幹線道路が通り、また晴海地区を結ぶ晴海通りも幹線道路として機能している。
- 道路の利用状況は、中央区内の幹線道路の平日朝タラッシュ時の速度は、23区平均18km/時に比べて低い状況になっている。
- 道路率は自動車専用道路面積を含むと約29.3%と23区で最高であるが、今後も道路の整備は計画されており、南側に集中している。

<駐車場・駐輪場>

- 駐車場は、銀座地区を中心に主な商業集積地区に分布している。
- 一方、小売店における駐車場を有する事業所割合は都内全域が約21%である一方、区内の小売店においては約10%程度である。
- 区立駐輪場は、約半数の駅に設置されているが、東日本橋・馬喰横山・馬喰町駅、茅場町駅、水天宮前駅などでは乗入台数に対して収容台数が不足している。
- また区立駐輪場のない東京駅、日本橋駅、銀座・東銀座駅などでは、放置自転車が多いと考えられる。



図 区内道路(一般道)の交通量と平均旅行速度

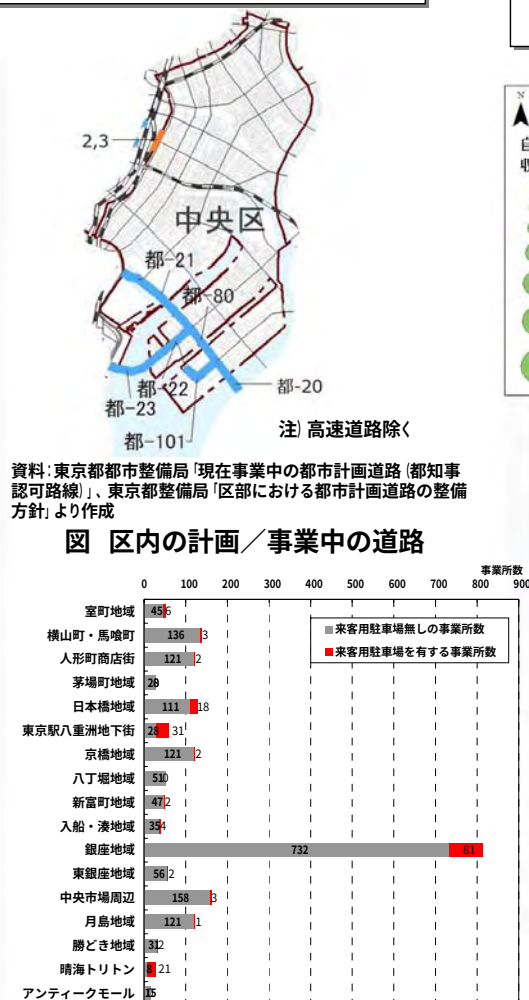


図 中央区各商業集積地区別の駐車場を有する小売業事業所数

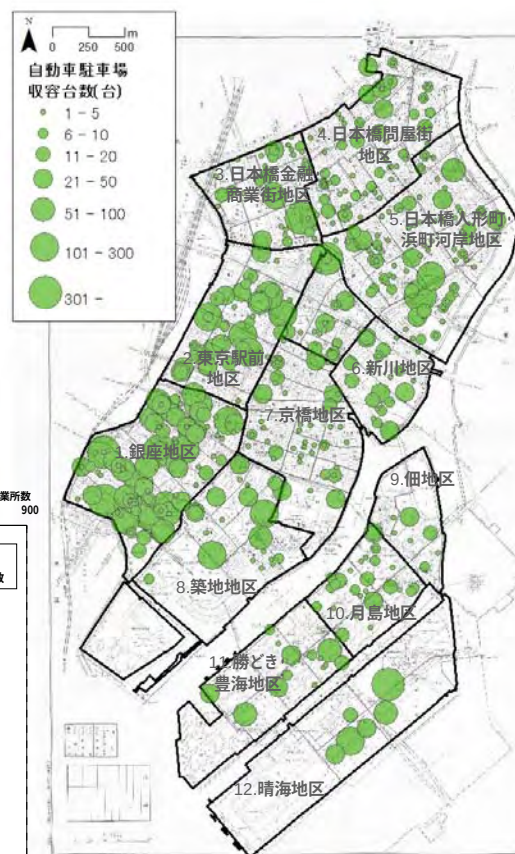
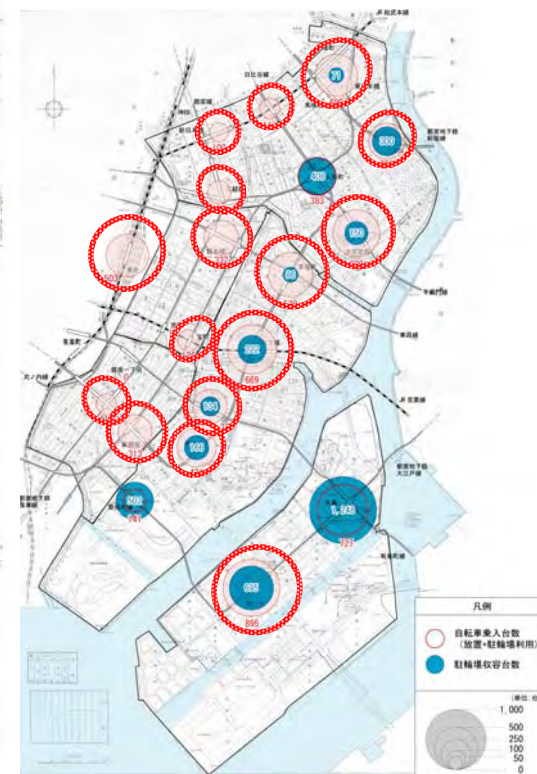


図 中央区内駐車場分布と収容台数



○: 自転車乗入台数に対して収容台数が不足している駅

資料: 「中央区自転車利用のあり方検討調査(H22)」より作成

図 区内各駅の自転車乗入台数と駐輪場収容台数